

そほう  
組 報

# かながわ

No.3 1990.3.15

## 身近なお寺の情報誌



お寺で人生を語りあう—第11回組連研。1990.2.17於宝光寺。

蓮如上人は「進んでものを言いなさい。何も言わずにだまっているのは恐ろしいことだ。信のある人も信のない人も、ありのまま話しなさい。口に出して言えば、心の底にあることもわかってくるし、また他人から過ちを正してもらうこともできる。だからとにかく、ものを言いなさい」とおっしゃいました。

(蓮如上人御一代記聞書)

浄土真宗本願寺派

そほう かながわ 第3号

# とくに聞き、とくに語り、とくに考える 神奈川組

人口がふえた大都市では、仏法に耳を傾ける人々の数は多くはありません。みなさまのまわりは、いかがでしょうか。私達の宗門では、親鸞聖人のお心を実現する為に、基幹運動を展開しています。神奈川組においても昨年、ご巡教、組連研、仏婦連盟(めぐみ会)など様々な運動を展開してきました。今年度も引き続きこのような運動を実施していきますので、積極的にご参加下さい。

来たる一九九一年度、本願寺第十一代顕如上人の四百回忌・本願寺寺基京都移転四百年の記念法要が勤められます。神奈川組では、五月十日に団体参拝を予定しています。

## 即如門主、神奈川組ご巡教

西本願寺の即如門主は、伝灯奉告法要の修了に伴い、昭和五十六年度から全国の組をご巡教されています。これは「教書」の趣旨を徹底し、宗門の基幹運動を推進し

て法義の隆盛をはかることを願いとして実施されているものです。

神奈川組では、このご巡教が、平成元年五月十七日と十八日の両日、港北区新羽町の善教寺を行事寺院として、また、巡回寺院に最乗寺、長徳寺、長念寺を会場とし

て実施されました。

ご巡教は、式典、帰敬式、法座、巡回の内容で行われました。特に法座では、ご門主臨席のもとに、門信徒との話し合いや僧侶・坊守との話し合いが持たれ、現代に生きる私達一人一人にとって、何が一番大切なものなのか、また、都市型寺院が現在かかえる様々な問題やこれからの課題など、積極的に意見が交わされました。

このご巡教をご縁に、神奈川組では、心のつながりを深め、共に、お念仏の道を歩むことを確認させていただき、大変有意義な二日間でありました。

## 一九八九年度活動報告

### 門徒総代及び仏壮研修会

六月二十四日(宝光寺)。「これからの寺院の有り方」をテーマに開催。講師は基幹運動本部中央相談員・山内教嶺師。

### 第十八回南ブロック お寺の臨海学校

七月二十四～二十六日(二泊三日)三浦組にて開催。毎年、神奈川県、静岡県、山梨県の寺院の協力により、仏の子供を育てる目的で開催されています。今年は山梨県で開催予定。参加希望の方は、最寄りの寺院までお尋ね下さい。

### めぐみ会研修及び巡拝

七月三日、清来寺にて総会。  
九月六日、最乗寺で研修ののち、寿福寺を巡拝。参加者百余名。

### 僧侶研修会

十二月十三日(光徳寺)。「ジャーナリズムと浄土真宗」をテーマに開催。講師は元神奈川新聞社取締役・雲居恒敬師。

### 寺族婦人連絡協議会

五月十二日、清来寺にて協議会。  
十月二十四日～二十五日、熱海にて泊研修会。二月七日、高元寺にて協議会。坊守さん方も交流を深めています。

### 普請

光徳寺庫裡・竣工  
善然寺本堂・庫裡・竣工  
常念寺会館工事着工

### 結婚

十月、高元寺宮本義宣さん結婚。  
十二月、光輪寺村石恵照さん結婚。

お仏壇・仏具はやっぱり若林へ!!

ご寺院用荘厳仏具から 在庫豊富に展示  
ご家庭用お仏壇まで

伝統工芸 京仏壇・京仏具

(株) 若林

東京店 東京都千代田区神田小川町2-1(日米商会ビル4,5階)  
☎(03)295-8488(代) / 水曜定休・〒101  
築地店 東京都中央区築地3-15-1(築地本願寺内)  
☎(03)546-8228(代) / 水曜定休・〒104  
錦糸町 東京都墨田区亀沢3-3-10  
営業所 ショールーム ☎(03)829-1581(代) / 〒130  
本社(京都)・福岡店・札幌店



創業天保元年(1830年)

\*「教書」=1980年4月、即如門主が、第24代門主に就任したことを宗門内外に告げる伝灯奉告法要を営むにあたり、ご自身の抱負と決意を示されたもの。

身近にある仏教のことは『**出世**』



「組連研」のお知らせ

連研主任 藤田恭爾

神奈川組では「組連研」(神奈川組・連続研修会)とあって、一年の六月から僧侶並びに門徒を中心に「浄土真宗の教え」を勉強しています。「全十二回」を一期とすることから、隔月で二年間(二十四ヶ月)かかります。

この「組報」が皆様の元に届く頃には、第一期終了まで、あと一回を残すのみとなっています。それこそ、初めの頃は僧侶も門徒も戸惑うことが多くてシツチャカメツチャカなこともありましたが、この「連研」は皆さんで「話し合う」ことを中心に据えています。

寺で僧侶の話聞くことには慣れておられる方々ですが、車座になって「さあ、思うことをお話し下さい」と言われてもなかなか言葉の出なかったお互いでした。

「あの人が部長に出世した」「業界屈指の人物に出世した」と、「出世」という言葉は悪いところには使いません。

この「出世」という言葉は仏教そのものを一言でいっくしており、仏教とは出世の教えといえます。

「出世」という言葉は、「世を出る」と、「世に出る」という全く逆の二つの内容をあらわしています。この「世」とはもちろん世間のことで、もともと「壊れる」の意味があり、私達の生きている世間は壊れる場であり、生者必滅の法則から免れることはできません。生れるということは死滅の方向に決定づけられており、「世」とは、「生死」そのものなのです。

仏教はこの世間―生死を超え

しかし、そこはお互いが「浄土真宗の教え」に少しづつ打ち解けて、この頃では、班別の司会も書記も自主的にご参加の方々がして下さり、話し合いも活発になった次第です。

ところで、現代は色々宗教に名を借りて、迷信とおぼしきものが横行しています。何が本物で何が偽物か、を自分自身で吟味しなくてはなりません。

「連研」は「何故念仏は真実なのか」を皆様と共に考え、味わう研究会なのです。

どうぞ、第一期生に評判を聞いて、第二期の「連研」にふるってご参加下さい。

第二期のスタートは今年の十月からを予定しています。

「めぐみ会」

仏教婦人の交流の場

めぐみ会担当 曾我求真

ていく道を明らかにしたもので「世を出る」ということは、正しく生死を離れること、すなわちさとりを意味します。また、このさとりの世界は自己満足の世界にとどまらぬのでなく、「世に出る」という利他救済の道にふり向け開かれているのです。釈尊がこの世に出現された目的のことは出世本懐といえます。このことから「出世」の日常語が立派な身分となるという意味をもつに至ったと解されましよう。

浄土真宗では、「世を出る」つまり浄土の世界へ歩む(往相)こと、また再び浄土から生死の世界へ還る「世に出る」歩み(還相)についても、阿弥陀仏が私達のために用意して下さっており、それに遇うことが本当の出世を意味しております。

神奈川組には十余の寺院に仏教婦人会が組織されており、それぞれ独自の活動をしています。それらの単位婦人会のつながりを深めるため、組仏婦連盟「めぐみ会」があります。

平成元年度は、「いのちの尊厳」をテーマに研修。私達一人一人の行いが、知らないところで人間の平等な人権を損ない、傷つけていることに気付かせて頂き、思いをあらたにしました。

今年度からは社会のために少しでも役立てようと、各寺仏婦に「グーナ募金箱」を置き、布施行を実践しております。寺院に参詣されましたときにはご協力をお願いいたします。

また、組内のあちこちの寺院に訪問し見聞する機会ができたことも、めぐみ会活動の楽しみの一つであり、仏婦会員の仲間の和はますます広がって行くことと思えます。

電話で聞こう3分法話

ちょっと一息。電話で仏さまのみ教えを!

- 築地本願寺こころの電話  
TEL.03(541)0282  
TEL.045(662)5629
- 長念寺テレホン法話  
TEL.044(911)8282
- 横浜布教所テレホン法話  
TEL.045(341)5700



ビハーク電話相談

―老いの悩み、病の苦しみに―

相談日

毎週月・金曜日/午後2時～5時

浄土真宗東京ビハーク(築地本願寺内)

TEL.03(5565)3418

み教えに聞く ●●●●●

## 不安なときには…

小林 泰善

ある日突然、見ず知らずの人が尋ねてきて、「わたくしは、仕事の関係で、未明におたくの前を車で通る者なのですが、実は、今朝前の道を走っているときに、おたくの屋根に火のたまが落ちるのを見たのです。何かなければ良いのですが」と言うのです。もし、このような訪問者があつたら、あなたはどのような対応をされますか。この話は、最近本当にあつた話であります。これは、明らかに宗教の勧誘であります。このお話しをしてくださった方は、「わたくしは、浄土真宗の門徒です。そのようなおかしな話は信ずることはできません」と、きっぱり断られました。しかし、未来のことはわかりません。それで、やはりどうしても気になるといふことで、お寺に尋ねて来ていただきました。

人間はどうしても弱いものです。未来に対する不安はだれにでもあります。それも、いやなことばを他人から聞くことは、それがまったく無責任なことばであつたとしても、実に不安なものであります。

わたくしたちは、「門徒もの知らず」といい、占いまじないなどにこだわることは、わたしのころが迷っている証拠であるとして関心を示しませんでした。ところが、現代は、むしろ、そのような宗教の情報のほうが多く、いやでも、心霊だとかタタリなどといふことばが聞こえてくる時代であります。

占いまじないなどに惑わされ、日の良し悪しや方角などにこだわることは、わざわざ本来歩むべき道を自ら狭めているようなものであります。しかし、そのことがわかっていても、不安は隠しおおせません。ましてや、信心の上で無防備であれば、ずるずると引きずりこまれてしまいます。

親鸞聖人のご和讃に、

南無阿弥陀仏をとなふれば

堅牢地祇は尊敬す

かげとかたちのごとくにて

よるひるつねにまもるなり

とあります。七百年以上も前の親鸞聖人の時代にも、そのような悩みを持たれる方が大勢いたのです。聖人は、「不安なときは、お念仏をしなさい。わからないことは、阿弥陀さまにすべておまかせすればいい。くよくよしないで、自分の歩むべき道を踏み外さずにしつかり歩みなさい」と示してくださっているのです。

阿弥陀さまの大きなみ光にまもられているからこそ、今を力強く生きることができなのです。

※堅牢地祇=天地をつかさどる神



若手僧侶の  
言いたい放題 21世紀のお寺のあり方を考える

■寺院の空間を地域に提供する

**A**▼ひとつ、21世紀のお寺のありかたについて意見を言ってください。遠慮はいりませんから。

**B**▼これからの寺は若い人も来られるような空間にしたいです。寺院が演劇やコンサートの場であってもいい。

**C**▼ウチの寺は、ちょうど改築をしなければならぬ時期にきているけれど、会館・ホールを造るとしても、そんなものが近所にも多く建てた。葬儀屋も斎場を造るし、使う人にとってもその方が合理的なんですよ。だから、何もお寺にそんなスペースがなくても済むんだ。

**D**▼ウチもかつて図書室を開設していたことがある。老人憩いの家というのもあった。でもいざいざ、そのうちに行政の事業として吸収されていった。だから最低限、お寺だけの活動をしっかりやっていくことですよ。

**E**▼川崎市の場合、老人憩いの家と子供文化センターを二つの町内会に一つ作るという方針でやっている。お寺がそれをしようとしても、行政にはお金があるから、とても太刀打ちできない。

**F**▼昔は、地域活動のために、結構お寺の境

内とか本堂を貸してくれという需要もあった。しかし最近では会館、ホールなどの設備のものが多くなってきた。コンサート、展覧会、会議とそれぞれに本格的なスペースがあって、しかも安く借りられる。だから今後は、ますますお寺も法事専門の場所という意味合いが強くなってくるんじゃないかな。

**B**▼いや僕はそう悲観的には見ていない。お寺こそいろんな文化活動の空間であるべき。法事だ、説教だ、教化活動だなんてのがクサイんだ。境内で前衛劇をする構想をもってますよ僕は。

■お寺の役割って何だ

**A**▼まあいろいろ考えはありますが、そもそもお寺の役割は何なのかを確認することが基本だと思えます。やはり仏教寺院ですから、教えをぬきにして存在価値はない。つまり教えを伝えるという役割は捨てることできない。それともう一つは、捨てる捨てないの問題ではなく、現実問題として習俗、つまり葬儀・法事を勤める役割を担っているという点。これは21世紀になってもお寺からは取りはずすことのできない役割だと思えます。

**G**▼布教ははずせませんよ。でもこれが一番大

事ですけどね。

**A**▼儀式だけやって布教活動がなかったら、それは宗教法人じゃなく、株式会社ナントカ寺という方がよっぽどまだからね。

**B**▼そういう、布教だ布教だと力むところが今行き詰まっているんだ。

**G**▼いや、布教といっても説教だけをいうのじゃない。その方法にはいろいろバリエーションは可能性としてある。

■教化活動は僧侶・門徒が力を合わせて

**H**▼ところで、なぜ各寺院に子供会ができないのか。いま会場の提供云々といっているけど。

**E**▼確かに日曜日は子供が集まりやすい。しかし寺としては、法事がその日に入るから時間的に難しい。

**G**▼専門的な仏教教化の場を、何も各寺院単位でするのでなく、寺がまとまってそういう場をもつのがいい。一つの例ですが、山口県の小月組では、組連研がきっかけとなって門徒から声があがり、日曜学校が始まったということですよ。

**C**▼お寺ってよく考えるとやることがいっぱいあるんですよ。法務、教化、経理、それに建物の清掃管理と。でも人間、得手不得手ありますから、住職一人では容易に全

部はこなせない。

**I**▼さっきから聞いてると、21世紀のお寺っていうけれど、あと10年ぐらいでやってくるから順調にいけば、自分のことなんてすよね。僕はお経をあげることとかも、例え子供会なんてやりたいとは思うけど、自信も能力もない。だから一つの寺院でするのでなく、組内の僧侶が協力して子供会を開催するのがいいと思う。

**E**▼ウチの寺では毎月一回、世話人会議をします。お寺の運営についてみんなで話し合います。そのとき必ず動行をしますが、導師も世話人が順番にする。行事のときの司会も門徒世話人がします。

**F**▼うん、それじゃないな。  
**A**▼それは大事です。神奈川組のテリトリには、地方からの寄り集まりの人々で、核家族の家庭ばかりですからね。だから地元の人々のつながりもこれから作られるものですよ。  
**F**▼それと、お寺は気楽に相談に来てもらえる場所ではなくてはならない。何か困ったことがあると、お寺には来ないで、ワケのわからない相談所や、占いに頼ってしまう門徒がよくありますから。

一九九〇年二月一日、於最願寺。神青会(神奈川組青年僧侶会)座談会より

先輩住職にインタビュー

川崎市川崎区・宝円寺住職  
飯田啄亮師

首都圏には真宗門徒の潜在人口が多いといわれます。その割りに本派寺院が少ないのですが。

「環境づくりは重要です。寺院は、もちろん中身も重要ですが、みかけも大切な要素。ここにお寺がありますよと存在を主張することも意味がある」

これからのお寺の役割として、何ができますか。

「地域に寺の設備を開放する。私の寺では、地域の人々の会合や一休み場所として提供しています。お寺は人の愚痴の捨て場所でもいい。これからはそんなスペースの開放を考えるべき。それがひいては伝道の素地を作ります」

長年の経験から青年僧侶に何かひとつを。

「定例法話会は何があっても継続することです。戦後ずっとやってきて一人しか来ないときもあった。しかし、人が聞きにくる来ないにかかわらず、必ずお寺で法話が定期的に行われているということが、信頼にもなります」

手のしわとしわを合わせて…しあわせ



おかげさまで、業界初の株式上市

上大岡店	横浜市港南区日野5-1-25	☎045-844-5740
鶴ヶ峰店	横浜市旭区今宿東町1621	☎045-951-5311
川崎店	川崎市川崎区東田町2-1	☎044-222-7577
鷺沼店	川崎市宮前区東有馬1-1-19	☎044-852-1268

営業時間 午前10時～午後7時 日曜・祭日も営業いたしております。

無農薬野菜・果物・有精卵 宅配いたします!

(生) (産) (販) (売)  
摩周農産有限公司 横浜営業所  
〒240 横浜市保土ヶ谷区上管田81 TEL045(383)6092

# わたしたちのお寺です



- 円光寺** 〒210 川崎市川崎区台町4-21  
石川 康承 ☎044-266-2677
- 宝円寺** 〒210 川崎市川崎区境町5-10  
飯田 琢亮 ☎044-222-3941
- 光徳寺** 〒210 川崎市川崎区京町1-14-3  
林 信順 ☎044-333-3997
- 正楽寺** 〒210 川崎市幸区南幸町2-49  
佐々木泰博 ☎044-522-1961
- 高元寺** 〒211 川崎市中原区宮内715  
宮本 義孝 ☎044-777-6544
- 長念寺** 〒214 川崎市多摩区登戸1416  
小林 泰善 ☎044-911-2549
- 常念寺** 〒215 川崎市麻生区栗木203  
古市 溪峰 ☎044-988-0205
- 善龍寺** 〒221 横浜市神奈川区斎藤分町33  
斎藤 幸紹 ☎045-491-9431
- 東善寺** 〒223 横浜市港北区中川町1440  
長谷尾芳雄 ☎045-911-3509
- 寿福寺** 〒223 横浜市港北区茅ヶ崎町1026  
多田 晨向 ☎045-942-3765
- 善教寺** 〒223 横浜市港北区新羽町2396  
平等 通昭 ☎045-541-7684
- 教覚寺** 〒223 横浜市港北区新羽町2395  
平等 真証 ☎045-531-2348
- 光輪寺** 〒223 横浜市港北区下田町3-2-9  
村石 恵照 ☎044-61-2661

- 最乗寺** 〒223 横浜市港北区勝田町1277  
日野 教昭 ☎045-941-3541
- 長徳寺** 〒223 横浜市港北区牛久保町1122  
平塚 大乘 ☎045-911-7351
- 長延寺** 〒226 横浜市緑区三保町2440  
雲居 隆栄 ☎045-932-3348
- 西勝寺** 〒227 横浜市緑区新石川1-10-8  
藤下フサ子 ☎045-911-0156
- 最願寺** 〒230 横浜市鶴見区矢向4-19-18  
藤江 昭道 ☎045-571-4694
- 宝光寺** 〒231 横浜市中区桜木町3-5  
藤田 恭順 ☎045-201-3509
- 宣正寺** 〒232 横浜市南区中里3-20-18  
早島 鏡正 ☎045-731-2679
- 善然寺** 〒232 横浜市南区大岡2-26-17  
永野 弥然 ☎045-741-2351
- 清来寺** 〒241 横浜市旭区今宿町1895  
曾我 求真 ☎045-951-0012

### 本願寺築地別院都市開教布教所

- 横浜布教所** 〒240 横浜市保土ヶ谷区和田2-12-19  
開田 蓮成 ☎045-341-7455
- 三ツ境布教所** 〒246 横浜市瀬谷区阿久和町3913  
原田 晃英 ☎045-364-2266
- 横浜緑布教所** 〒226 横浜市緑区中山町796-25  
小泉 敬信 ☎045-934-8648

## 「神奈川組」とは...

私たちの教団（浄土真宗本願寺派）は、全国に一万余りの寺院を擁し教団独自の地区割をしています。その一番小さな単位を「組」といいます。神奈川組は、川崎市と横浜市中部と北部の寺院によって構成されています。

### 浄土真宗本願寺派東京教区神奈川組

- 組長/雲居 隆昌
- 副組長/永野 弥然
- 副組長/藤江 昭道
- 教区会議員/飯田 琢亮

子供用ではあるが、大人も童心にかえり遊び心をくすぐられてしまう充実したアスレチック施設。



## お寺を訪ねて

(2)

### アスレチックのあるお寺・清来寺

(横浜市旭区今宿町一八九五)

清来寺がある国道十六号線と中原街道の交差しているこの地域は、都筑が丘・都筑が原と呼ばれた地域で、昔は鶴が群れ遊んでいたという。このお寺は、山を背にし、境内には自然があふれ、樹齢三百五十年以上という椎、春には二〜三十匹のヒキガエルが産卵に現れる池がある。三百年も経つ本堂は、昭和六十二年秋に修復された。また、先代住職故鶴雄師が昭和三十八年に開設した幼稚園がある。昭和五十五年には現住職求真師が子供たちのための遊び場としてアスレチックを裏山に

つくった。敷地千坪という、ちょっとせいな程のアスレチックは、山の傾斜を利用した本格的なものである。数多くあるアトラクションの中には、木に吊るしたロープの下に人の乗れる程の大きな球がついていて、それに腰掛けて山の下へ向って滑り降りるといっても、住職自ら考案したという木の重しをロープで引き上げるという力比べのものもある。入口から、いろいろなアトラクションをやりながら山を登っていくと、山の頂上から滑り降りる五十メートル程もある長いスベリ台がある。これはスリル満点でちょっと恐いぐらいである。

このアスレチックは、園児・卒園児の小学生を対象として利用してもらっているところである。また、お彼岸・お盆の時などは、お寺にお参りに来た家族連れが帰るといいうのも都会には珍しく、自然に恵まれたお寺ならではの感じがする。ケガを考慮して、原則的に一般開放はしていないのであるが、ご住職に利用したい旨を申し出れば、利用できるということである。

神奈川県指定銘菓

# 「翁 飴」

株式会社  
**境 シゲタ**  
本社工場/横浜市南区大岡2丁目  
TEL.731-0692

売店

- 長者町9丁目店 ☎251-6994
- 伊勢佐木町6丁目店 ☎261-0634
- 相鉄ジョイナス店 ☎321-6921
- 横浜駅ビル店 ☎311-1261
- 新横浜高島屋店 ☎474-1666

# 仏事のころえ

お参りのときは、  
必ずお念珠を!

お念珠ねんじゆ（お珠数じゆずともいう）は、礼拝の道具として古い歴史を持つものです。発生は古代インドにまでさかのぼり、お経にも種々説かれております。そして、すべての仏教徒が持つべき伝統的な法具です。

その用途は、仏さまの徳をたたえ、礼拝するための法具としてもちいるものであります。蓮如上人の『御文章』には「珠数の二連をもつひとなし。さるほどに仏をば手づかみにこそせられたり。聖人まったく『珠数をすてて仏を拝め』と仰せられたることなし」とあり、お珠数を持たないで礼拝することは尊い仏さまをわしづかみにすることであるとたしなめられています。

お念珠には、単念珠たんねんじゆと二連珠にれんじゆの二種類がありますが、通常は単念珠をもちいます。その持ち方は、合掌の時は両手を合わせて念珠をかけ、房を下にたらし、親指で軽くおさえます。合掌しないときは、左手に持ちます。

門徒のたしなみとして、家族のひとりひとりが必ずお念珠を持ちましょう。また、お念珠は、つねに大切に取り扱い、畳・床等の上に直接置かず、持ったままお手洗いに行くことなどもやめましょう。

## 編集後記

◆ 神奈川組はおもしろい。連研、めぐみ会など、僧侶も門徒も一緒にあって好きなことがいえる。あたりまえのことですが、世の中、そうはいかないことのほうが多いですよ。

(T・K)

◆ 結婚式に思う。人生の門出は、心からの祝福に包まれて迎えたいもの。ホテルでの営利的な大量生産結婚式が一般的になった昨今、私たちの幸せを誰より願っているのはアルバイトの巫女さんではなく阿弥陀様のはずです。

(Y・M)

◆ 最近、地球環境悪化が問題になっている。そんなことは人ごと、つい便利さだけを追求して毎日の生活を送ってしまう。果たしてこれでいいのか仏教徒。

(Y・F)

◆ 『組報かながわ』は、川崎市と横浜市北部・中部に散在する浄土真宗本願寺派の寺院が協力して編集しているご門徒のための広報誌です。お寺で法座があるときには、是非、仏法を聴聞しに行きましょう。きつと新しい発見があります。皆様からのご意見ご希望をお待ちしています。

(D・H)



浄土真宗本願寺派 (西本願寺)

組報かながわ No.3

■発行日 1990年3月15日  
(毎年1回3月発行)

■編集発行 浄土真宗本願寺派  
東京教区神奈川組  
基幹運動推進委員会

〒226 横浜市緑区三保町2440 長延寺内